

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:112.

脳梗塞の後遺症ゼロを目指して！ ～『Door To Puncture Time短縮』の
取り組み～

山田 咲世, 熊谷 智美, 鈴木 智美, 富樫 花織, 菅原 友美,
和田 始, 嵯峨 健広, 渡邊香留

脳梗塞の後遺症ゼロを目指して！ ～『Door To Puncture Time 短縮』の取り組み～

旭川医科大学病院 光学医療診療部・放射線部ナースステーション
○山田 咲世、熊谷 智美、鈴木 智美、富樫 花織、菅原 友美
脳神経外科 和田 始、嵯峨 健広
手術部ナースステーション 渡邊 香留

【目的】

脳梗塞の治療開始までの時間を短縮し、安全に血管内治療を開始するため取り組んだ内容を報告する。

【取り組み内容】

必要物品まとめたワゴンの作成、医師による学習会を開催、物品の保管場所の確認、緊急薬剤の常備。

【結果】

ワゴンの作成により看護師1名でも準備の時

間が省け、入室までの時間短縮に繋がった。学習会では、迅速な治療開始が患者の後遺症を減少させることを学んだ。血栓回収システムを血管造影室内に常設した。取り組みによりマンパワーの維持と、治療開始までの時間短縮・チームの連携が深まった。

【今後の課題】

定期的な学習会の開催や安全に治療が受けられよう他部門と連携していきたい。